

令和5年度生物資源産業学部学生と学部長・専攻長との懇談会 要旨

日 時 令和5年11月27日（月） 16:30～17:35

会 場 地域創生・国際交流会館5階 フューチャーセンター

出席者 別紙のとおり

はじめに、松木学部長より本懇談会開催にあたり挨拶があり、教員挨拶、学生挨拶、その後は、学生に対して行った事前アンケートを基に、参加学生から意見を伺い、教員が回答する形を取った。意見・回答は次のとおりである。

授業・実習等の教務関係、カリキュラムについて

学 生：1年と2年はコロナ禍でオンライン授業が中心だった。オンライン授業はどこでも受講できる点が個人的には良かったが、対面で授業を受けるのが大事との意見もあるようにオンラインはメリットとデメリットがある。

教務委員長：授業回数（授業時数）の半分を超えてオンラインで行った授業は、メディア授業となる。文部科学省の法令により、学部学生は卒業要件に算入できるメディア授業の単位数の上限が60単位までと定められているので、そこは認識いただきたい。

学 部 長：授業は原則対面となっている。メディア授業は事前の登録が必要である。私の授業では、対面授業で補講はオンラインで行うようにしている。他の教員はどのようにしているか。

各コース長：・居室が新野にあり、キャンパス移動に時間がかかるため、100%オンラインで行っているが、対面の方が大事なことを伝えやすいと思う。オンラインのメリット、デメリットは感じている。

・教育効果がオンラインの方が良いと思う。対面6割、オンライン4割でメディア授業にならないようにしている。

・対面の方が学生同士で知り合って友達ができる。グループワークで交流が広がり、孤独感もなくなる。対面の方が良いと思う。オンラインは、ネットワークが不安定だと何度も対応が必要になり、非常に手間がかかる。

学生委員長：本学は対面による授業で認定を受けている。基本は対面で、コロナ禍でのオンライン授業がイレギュラーだった。オンラインは良いところもある。大学院生はオンラインで授業を行っている。ただ、学部学生は対面で顔を見せ合い交流しながら授業を行いたい。友達ができるし、そのまま次の授業に行くことにも繋がり、授業のとりこぼしも少なくなる。また、理系学科のため、実習等でオンラインだけでは難しい部分がある。

学 部 長：今後は対面が主体であるということをご理解いただきたい。

学 生：1年の最初は座学が多かった。もっとグループディスカッションがあれば、学生同士で話す機会が増えて良いと思った。

教務委員長：グループディスカッションは議論のうえで重要だが、最初は座学で基礎をしっかり学んでもらいたい。1年は100人超となる授業があるので、学年が上がってある程度的人数でグループディスカッションを行うともっと効果的である。

学 部 長：学年が上がってから、実習や授業でもグループディスカッションが増えるだろう。

学 生：オンラインよりは対面の方が内容を深く理解できるが、教室によっては前のスクリーンが

見にくいことがあった。

コース長：縦長の教室で前にあるテレビも2台のうち、1台しか映らない問題のある教室がある。学生には前の方に座るように言っているが、後ろの方に集まっている。対策として、資料を配布しているが、最後の問題は配布していない。後で学生が写真を撮っていると思う。専門棟がないので、良い教室が確保できないこともある。そこは理解してもらいたい。

学生委員長：教室によっては、スクリーンが見えにくいところがある。見えない場合は、教員にそのことを伝えてほしい。

学生：理工学部2年向けにプロジェクトマネジメントが開講されており、グループワークやプロジェクト等、社会に出てからチームで行う仕事の進め方やファシリテーション、アイデア創出を学べるようなので、本学部にもそういった科目があれば受けてみたいと思った。

学生委員長：いろんな科目を盛り込みたいが、教育課程はどのような技術、知識を身につけるかを念頭に考えており、それで認可を得ている。また、そのような専門科目の教員が本学部にはいないので、開講は難しい。その授業の担当教員が受け入れてくれたら、他学部開講の授業でも受けられる。教務委員に相談してほしい。

学生：他学部では、集中講義で留学プログラムがあり、単位認定も可能。本学部でも長期休暇に特化した留学プログラムがあると参加しやすい。

学部長：本学部はまだ留学関係が整っていない。次年度以降は、学部としてサマープログラムの参画の検討や留学機会を増やしたいと考えている。

コース長：これまでにバン格拉ディシュのラジシャヒ大学の留学生3人を指導した経験があり、協定を進めているところである。長期的に教員個人の繋がりによって関係を築いて協定を結び、プロジェクトになっていく。本学部はまだ7年程度の歴史しかないため、他学部のようにプログラムを用意できるまでは発展してない。今後、力を入れていきたい。

その他 大学生生活、施設整備、教員交流、今後の進路など

学部長：大学生生活で困ったことについて、昨年度まではコロナ禍によるオンライン授業が多くあったため、交友関係が少ない、友達ができないという意見がいくつかあった。このことについて各先生にご意見を伺いたい。

コース長：・個人的には、たくさんの友達が必要ないと思う。意見の合う人、心が通じ合う人は一生でも1、2人くらい。そういう人に会うために、いろんな人とのふれあいは必要になる。

・わいわい大勢で楽しくやっているように見えているが、本当に仲良い友達は数人。波長が合う人を探すためには、アルバイトやクラブ活動、ボランティアなど人間関係を広げる場に出向いていかないといけない。

・大学の中の付き合いだけでなく、異なる軸の関係から、同好の士ができるかもしれない。周りに合わせて探すよりは、そういうやり方もある。

学部長：授業が対面となったので、その利点を活かして、お互いに声をかけあってほしい。

学生：地元が大阪で津波などの心配もなく、大雨でも気にせずに通学していた。今は自転車通学で大雨だと視界も悪い。徳島は川が多く、身の危険を感じるがあったため、休講基準の見直しを検討してもらいたいと思っただけで、特に深く考えてのことではない。

学部長：災害があると困ると思う。現状では2つ警報が出れば、休講となる。メールや教務システムなどをチェックしてほしい。

学 部 長：病気やメンタル不調の時に困ったとの意見も多くあった。一人暮らしでは対応が難しいので、キャンパスライフ健康支援センターを利用して欲しい。

学生委員長：身体もメンタルも専門家をお願いして、意見を聞くのが一番。後回しにして重篤になった人がいる。早いうちに専門家に診てもらおうようにして欲しい。そこに行くのにハードルが高いと思っているかもしれないが、そんなことはないので、気軽に行ってもらいたい。友達と一緒にでもよいと思う。行くときは、教員にも相談してくれると後押しができる。予約が必要ではあるが、大学に相談室もあるし、カウンセラーもいる。学務係や指導教員に愚痴を言うのもよい。ただ、教員も人間なので、気に入らないことを言うこともあるが、そこは軽く受取って欲しい。

コ ー ス長：今日一番大事なことである。周りで不調な人がいたら、このことを教えてあげて欲しい。

学 部 長：専門棟を作ってほしいとの意見が毎年出ているが、予算、場所の問題などがあり、なかなか話が進んでいない。ご意見を上層部に伝えて、改善を図りたい。また、新野、石井、鳴門のキャンパス移動手段についてもご意見をいただいている。個人的な援助は難しい。石井キャンパスに屋外灯を設置してほしいとの意見については、改善を図りたい。

コ ー ス長：遠隔地に研究室があり、通うのが大変というご意見は理解できる。バスや施設について、良い方向に話が向かって欲しいと思う。新野の場合は、研究室配属の時に車や JR で通学できるかを確認している。気を配りたい。

学 生：今夏、学会発表で仙台に行ったが、旅費は全て自費だった。財政状況が厳しいのは分かるが一部だけでも補助をしてほしい。また、食プロの件で、在学契約は守ってほしい。教授会で議決されているので、それが学生にもきちんと伝わるようにしてほしい。

学 部 長：旅費は、各教員の資金から負担できるところは負担している。研究費に使う費用も必要であり、研究室の状況にもよる。ただ、私自身が学生の時の学会発表は自費だった。学会で発表することが大事である。

学生委員長：食プロについては、新カリ（現 3 年）は無くしたが、旧カリ（現 4 年）は無くしていないし、移行期の新カリ適用 1 年目は受けられるようにした。より良いカリキュラムに変更する際に新カリでは無くしたことについてはご理解いただきたい。

学 生：自分は旧カリの 4 年生になる。学務係と話したときに無くなったと聞いた。

学生委員長：擁護するわけではないが、学務係は異動等で人が変わっているので、勘違いがあったのかもしれない。旧カリは無くしていない。その点をご理解いただきたい。

その後、松木学部長から挨拶があり、閉会とした。